

リンパ球クロスマッチの取扱いについて

1. 現在の取扱いについて

- 前感作抗体は、各臓器のレシピエント選択基準において、適合条件として以下のとおり定められている。

心臓

リンパ球直接交差試験（ダイレクトクロスマッチテスト）を実施し、抗T細胞抗体が陰性である事を確認する。パネルテストが陰性の場合、リンパ球直接交差試験（ダイレクト・クロスマッチ）は省略することができる。

肺

ダイレクト・クロスマッチを実施し、陰性であることを確認する。パネルテストが陰性の場合、ダイレクト・クロスマッチは省略することができる。

肝臓

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

膵臓

リンパ球交差試験（全リンパ球又はTリンパ球）陰性

腎臓

リンパ球交差試験（全リンパ球又はTリンパ球）陰性

小腸

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

2. リンパ球クロスマッチの取扱いに関するこれまでの経緯

- 平成30年6月6日に開催された、第1回肝臓・膵臓・腎臓の選択基準等に関する作業班において、膵臓移植希望者（レシピエント）選択基準における適合条件の前感作抗体の取扱いを心臓、肺のレシピエント選択基準と同様に、「ダイレクト・クロスマッチを実施し、陰性であることを確認する。パネルテストが陰性の場合、ダイレクト・クロスマッチは省略することができる。」に変更するかどうかについて議論された。

- 同作業班にて膵臓移植希望者（レシピエント）の約80%が、膵腎同時移植を希望している。腎臓ではクロスマッチが必要という意見がまとまり、膵臓の選択基準においても、腎臓と同様にクロスマッチは必要という意見がまとまった。

- 平30年6月3日に日本糖尿病学会「膵・膵島移植に関する常置委員会」、日本膵・膵島移植研究会の合同会議にて、リンパ球クロスマッチの取扱いに関して議論され、腎臓移植の基準等に関する作業班とも話し合いながら基本的にはクロスマッチを継続するという意見がまとまった。